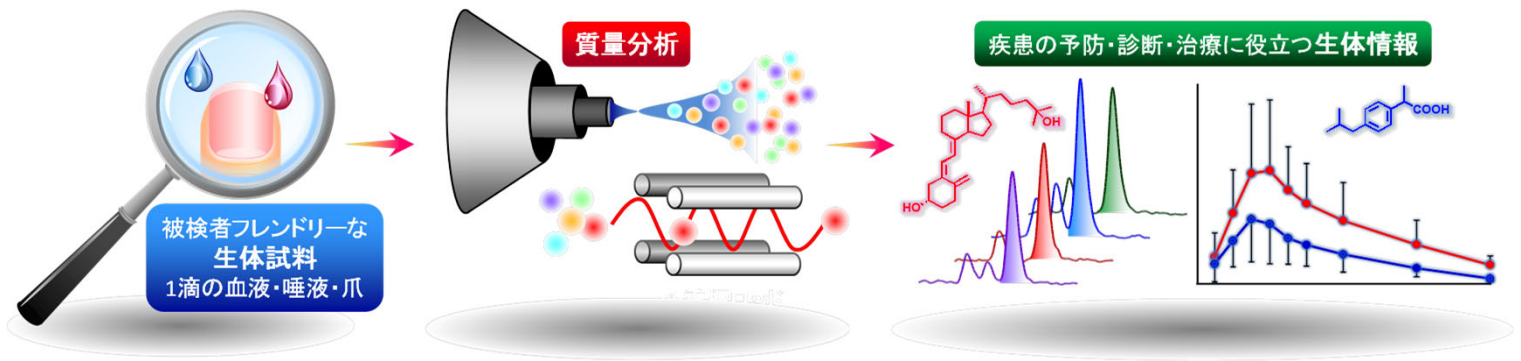


# 薬学科

## 東(達)研究室(臨床分析科学)



病気を治すためには、まず何の病気か診断し、進行具合を的確に把握しなければなりません。

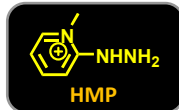
最先端の質量分析技術と独自に開発した試薬を組み合わせ、超微量(ピコグラム = 1兆分の1g)のホルモンやビタミンを捉え、

これまで不可能であった無侵襲検査、病気の早期発見、治療効果確認を可能にすることを目標に研究しています。

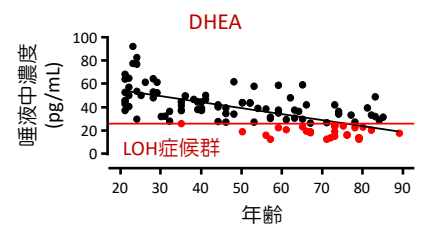
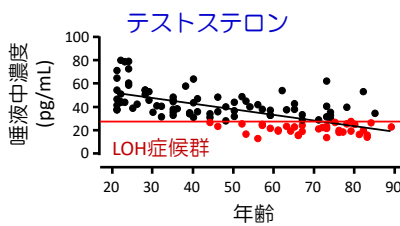
### LOH症候群(男性更年期障害)の検査法の開発

唾の長所: **どこでも** (自宅でも), **誰でも** (医師・看護師でなくとも), **痛みを伴わず** (針を刺さずに), **簡単に** 採取可能。

唾の欠点: **ホルモン濃度が極めて低い** (血液の100分の1程度) での測定が難しい。



唾液でLOH症候群の検査を可能にします

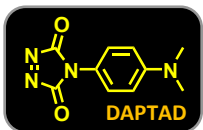


### 新生児のビタミンD欠乏症の検査法の開発

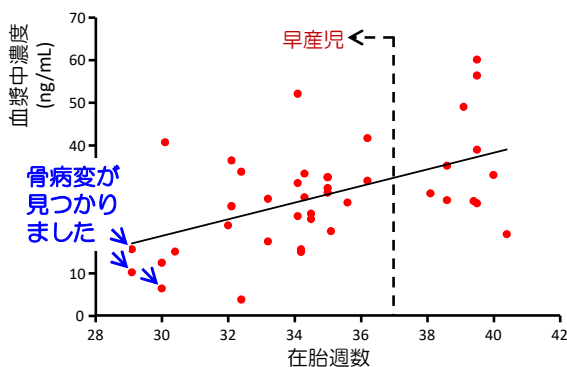
早産児の**ビタミンD欠乏** ⇒ **くる病** (骨の病気) が注目されている。

私たちが見つけた**診断マーカー = 25(OH)D<sub>3</sub>S**を使い、

**血液1滴**でビタミンDの供給状態を評価。



血液1滴で新生児のビタミンD欠乏症を検査します



### 爪を用いるステロイドホルモンの慢性分泌異常の検査法の開発

**爪**: 採取・保管・運搬が簡単。

**中長期** (数週間~1か月) の**生体情報**を保存。

爪からステロイドホルモンの慢性分泌異常を見つけます

